

「高岡銅器」の2点表彰

クールジャパン

製品部門

「日本のかっこいいもの」として文化、産業、デザインなどを国際的な視点で評価し、海外に発信することを目的とした「第1回クールジャパンアワード」のプロダクト(製品)部門で高岡銅器関係の2点選ばれ、4日、高岡市の高岡商工会議所で表彰状の授与式が行われた。高岡銅器の技術力の高さをアピールできた形だ。

杯とスプーン 外国人ら審査で



杯の製品を手にする織田社長



アイスクリームスプーンを手にする高田社長(左)と寺田さん

アワードは一般社団法人「クールジャパン協議会」(東京)が主催し、経済産業省や京都府、京都市の後援で初めて行われた。協議会が推薦する119点の候補から、国内在住の外国人ら20人が審査を行い、「秋田 曲げわっぱ」(産業部

門)、「東京スカイツリー」のライティングデザイン(デザイン部門)、「さいたま市 大宮盆栽美術館」(美術館部門)など計18点を選んだ。このうち、プロダクト部門では6点を選ばれ、2点が高岡銅器関係の製品だった。

「織田幸銅器」(高岡市金屋本町、織田幸市社長)の杯は、表面が純銅の赤、中は上塗りしたスズの白を生かして、「古き良き伝統的な工芸品を、現代ならではのデザイン性で新たな価値観を創造した」と評価された。東京で1級建築士事務所

を営む寺田尚樹さんがプロデュースとデザインを手がけ、「タカタレムフス」(高岡市早川、高田博社長)が製造・販売するアイスクリームスプーンは、アルミニウムの熱伝導率の高さを利用して、スプーンを持つ手の体温でアイスクリームを溶かしながらすくい出すことができる製品で、「着眼点に優れ、機能性とデザイン性を究極まで追求している」と評価された。

この日、表彰状を受け取った織田社長は「ものづくりの街・高岡の存在を世界に示すことができた」、高田社長は「今後も自分たちのやりたいことを貫いて良い製品を作り続けたい」とそれぞれ喜びを語った。